



みずがめフォーラム代表

吉川 辰美 さん (70)



左上) 子どもたちを集めた環境学習を毎年行っている。左下) 水質指標となる水中生物の標本。右) 窒素ガス保存システムで保管されている、須木で20年前に捕獲されたテン。現在も、きれいに保管されている



東京国立博物館でミイラの保存用システムとして採用されている「窒素ガス保存システム」。生物標本や文化財の劣化を大幅に抑えて保存できる技術だ。このシ

小さいころあった 自然あふれる故郷の 美しい山や川を 取り戻したい

システムを開発したのは、吉川辰美さん、70歳。

吉川さんは、この研究の傍ら、川の水質調査や自然保護活動などを行う「みずがめフォーラム」の代表も務めている。

自身の技術を使い、水質の指標となる水中生物の標本を制作。実際にこの標本を使って、子どもたちを対象にした環境学習も行うなど独自の取り組みを進めている。

「父親が営林署勤めで山育ちだった。そのため、小さいころから生き物が大好きでした。20代のころは、神奈川県でサラリーマンをしていたが、地元で研究をしたという思いから30代で仕事を辞め帰郷しました」と

吉川さん。

しかし、目の当たりにしたのは、「ごみが捨てられている山」と「汚れている川」。そこには、かつていた魚や虫がいなくなっていた。

「自然あふれる故郷が好きだった。だからこそ、昔の風景を取り戻したい。」

その思いから、これまで、自然保護に取り組んできたことは僅かです。でも、僕と同じように環境のために自分の得意なことを生かすことは誰にでもできます。

これから、多くの人を巻き込んで、さらに自然保護に取り組んでいきたい。」

あの日の美しい自然を取り戻せるその日まで。吉川さんの活動は続く。

小林人

こばやしびと
Vol.58

第2次小林市総合計画の策定に向けた取り組みが始まります

平成29年度からの市運営の指針を策定

市は、第2次小林市総合計画を策定します。総合計画とは、将来小林市をどのようなまちにしていくのか、またそのためにはどのように取り組んでいくかについて、総合的、体系的に取りまとめるものです。市民ワークショップ、アンケート調査などを通して策定していきます。詳しくは、随時お知らせします。

第2次総合計画は、次の3つをキーワードとしています。

①協働できる計画

平成25年に「小林市まちづくり基本条例」が施行され、その後初めて策定する市の最上位計画です。今後の本格的な人口減少時代を見据え、市民の責務、行政の責務等を具体化し、協働できる計画を策定します。

基本構想は市民が策定、基本計画は行政が策定します。こうすることで各主体が計画に

市政 Topics

市が取り組む施策や事業を紹介します。



昨年行った若者ダイアログの集合写真。総合計画は、市民の皆さんと協力して策定を目指しています

オーナーシップ感を持ち、共に計画の実現をめざします。

②トータルシステムの構築

計画は運用されて始めて実現されることとなります。第2次総合計画を中心に「総合的かつ計画的な市政運営」への転換を図ります。

県内9市で初めての取り組み 小・中学校の給食費を半額補助



小林市は、子育てしやすい環境作りを目指しています

ふるさと納税の益金を活用

市は、4月から子育て支援の充実を目的として市内21校の小・中学校の給食費を半額補助しています。財源は、ふるさと納税の益金を活用。県内9市では初めての取り組みとなっています。

とりまるくんゆき 鳥丸軍雪さんら2人に 小林市アンバサダーを委嘱

国際化に向け小林の魅力を世界に

5月19日、市出身の世界的デザイナー鳥丸軍雪さんとマネージャーのイワン・コウリン・グレゴリーさんに小林市アンバサダーを委嘱しました。アンバサダーは、国際化に向けての助言や国内外での宣伝活動を行います。鳥丸さんは、「今までの経験を生かし、小林のためにできることをしていきます」と話していました。



左から、鳥丸さん、肥後市長とグレゴリーさん